

静岡県試験研究 10 大トピックス ( 環境衛生科学 研究所 )

|                            |   |                     |   |
|----------------------------|---|---------------------|---|
| <b>タイトル</b>                | 新テレメータシステム発進<br>～先進的な大気環境監視システムの<br>構築～   | <b>研究課題名<br/>期間</b> | 大気汚染常時監視テレメータ<br>システムに関する調査研究<br>(平成 30 年度～令和元年度) |
| <b>所 属</b>                 | 環境衛生科学研究所   | <b>補職名</b>          | 主任  |
|                            | 大気水質部   | <b>研究者名</b>         | 前田 友幸   |
|                            | 大気騒音環境班   | <b>問合せ先</b>         | 054-245-7659                                      |
| <b>研<br/>究<br/>概<br/>要</b> | <p><b>【背景・ねらい】</b></p> <p>県及び市は、大気汚染防止法に基づき、県民の健康を保護するとともに生活環境を保全するため、光化学オキシダントやPM2.5等6項目の大気汚染物質を監視する測定局を県内67箇所(うち県有26局)で測定している。</p> <p>県は、これらの測定値をテレメータシステムにより遠隔収集し、リアルタイムでの大気汚染物質の監視を行い、異常時には警報の発令等の監視業務を行っている。併せて、web上で県民に広く公表している。</p> <p>平成14年度に導入した旧システムにおいては、防災面・情報セキュリティ上の堅牢化、機器の不具合等に起因する異常値の真偽判定の迅速化・効率化の課題があった。</p> <p><b>【成果の内容・特徴】</b></p> <p>令和元年度に更新されるシステムの高度化を図るため、要求される機能(仕様)を調査し、また、異常時の自動判定のアルゴリズムの検証を行い、以下の成果を、システムの仕様として実現した。</p> <p>1 仕様については、都道府県及び県内関係市へのアンケート調査により、以下の機能強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム稼働率目標の設定(99.98%)による常時監視の継続性と経済性の確保</li> <li>・ クラウド型データサーバの採用による防災面での堅牢化</li> <li>・ システムのデジタル化による情報収集体制の充実</li> <li>・ ユーザー(県民)向け開示情報の拡大(過年度データの提供)と図の利用による視認性の向上、スマートフォン対応による利便性の向上</li> </ul> <p>2 過去に発生した事象を類型化し、対処アルゴリズムをシステムに組み込み、異常値の自動判定やメール等通知機能の導入による危機管理機能の強化を果たした。</p> <p><b>【成果の活用・留意点】</b></p> <p>新システムは、令和2年3月から稼働し稼働開始し、行政による監視業務の強化と効率化に加え、web上(<a href="https://taikikanshi.pref.shizuoka.jp">https://taikikanshi.pref.shizuoka.jp</a>)で県民に正確なデータを安定して提供している。</p> |                     |   |

\* 図、写真などについては次頁に添付をお願いします。



## システム構成概念図

